

三重県桑名郡多度町

における祝言のあいさつ

太田有多子

はじめに

- 1、対象地の地理的環境：桑名郡は三重県の東端、養老山地東南端部、多度山の南に位置し、愛知、岐阜の県境と重なる揖斐、長良、木曾三川に隣接している。その中の一町である多度町は、桑名市より約9km北上した揖斐川沿いに位置する。
- 2、対象地の社会的経済的環境：当地は5地区からなる農業集落だが、専業農家は少ない。そして、最近では郡外への通勤者が多い。また、古くは多度大社（北のお伊勢さん）の門前町的性格をも持つ集落であったが、現在は、門前に何軒かの土産物店が並ぶ程度で、往時の面影はほとんどない。それでも、5月4、5日には「上げ馬神事」で有名な「多度祭り」があり、年に一度の賑わいを見せる。
- 3、生業：主な産業は農業であり、米作が中心だが、他に果樹栽培も多く、蜜柑や柿を栽培している。農家のほとんどが兼業農家であり、多くの通勤者が桑名市を始め、四日市市、名古屋市へと出ている。
- 4、交通：桑名市より出ている近鉄養老線で北上すること15分の多度駅で下車。1時間に2本ずつの上下線が停まる。
- 5、人口：平成2年9月現在で2808戸、11303名である。過去10年間で200名ほど増加しているが、極端な増減はない。
- 6、調査年月日：平成2年（1990）9月16日
- 7、話者：山M＝山室憲夫（ノオ） 大正 8年生 元郵便局長
山F＝山室喜（ヨシ） 大正15年生
井＝井沢次郎 大正 9年生 元七取村役場職員
- 8、調査者：太田有多子
調査場所：山室ご夫妻とは山室氏宅応接間にて
井澤氏とは伊東春夫氏宅応接間にて
- 9、調査方法：質問法による調査
- 10、本稿では、●は「話者による挨拶表現」、
○は「話者による説明文」、
※は「筆者による説明文」を示す。

I. 結納授受のあいさつ

1. 仲人が新婦の家に結納を持参した時、座敷で、その家の主人（新婦の父親）に向かって、どのようなあいさつをしますか。

①「ホ」ンジツワ オ「ヒガラ 「ヨ」ーテ オ「メドト」ゴ「ザイマ」ス。ナ「ニナニケ」ノ ユ「ーノー ジ「サン」シ「マ」シタ。「イ」クヒ「サ」シク ヨ「ロ」シク オ「ネガイモ」ウシマ」ス。（井）

本日は、お日柄も良くて、おめでとうございます。何々家の結納を持参しました。幾久しく、よろしくお願い申します。〈一般的〉〈かしこまり〉〈上品〉

②「ホ」ンジツワ オ「ヒガラモ 「ヨ」クテ ナ「ニナニケカ」ラ ユ「イノー」オ「オ」 オ「モチ イ「タシマ」シタ「ノ」デ「イ」クヒ「サ」シク オ「ウケトリ ク「ダサイマ」セ。（山M）

本日は、お日柄も良くて、何々家から結納をお持ちいただきましたので、幾久しく、お受け取りくださいませ。〈一般的〉〈かしこまり〉〈上品〉

2. その家の主人（新婦の父親）は、仲人に応えて、どのようなあいさつをしますか。

③コ「ノタビワ 「ゴ」エン「ア」ッテ ア「リ」ガトゴ「ザイマ」ス。ゴ「ジュノーサシテイ「タダキマ」ス。イ「タラヌ「ム」スメデスガ 「ヨ」ロシク オ「ネガイイ「タシマ」ス。（井）

この度は、ご縁あって、有難うございます。ご受納させていただきます。至らぬ娘ですが、よろしくお願い致します。〈一般的〉〈かしこまり〉〈上品〉

④「ホ」ンジツワ ゴ「テー」ネ「ナ」 ユ「イノー イ「タダキマ」シテ タ「シカ」ニ ジュ「ノー イ「タシマ」シタ「ノ」デ フ「ツツ」カナム「スメ」デゴ「ザイマス」ガ「 「イ」クヒ「サ」シク ヨ「ロ」シク オ「ネガイモ」ーシアゲマス。（山M）

本日は、ご丁寧な結納をいただきまして、確かに、受納致しましたので、ふつつかな娘でございますが、幾久しく、よろしくお願い申し上げます。〈一般的〉〈かしこまり〉〈上品〉

⑤「イ」クヒ「サ」シク オ「ウケトリ イ「タシマ」シタ。「セ

「ンボサマニモ 「ヨ」ロシク オ「ンレーオ モ「ーシアゲテ
「ク「ダサ」イ。(山M)

幾久しく、お受け取り致しました。先方様にも、よろしく御礼申
し上げて下さい。〈丁寧〉〈かしこまり〉〈上品〉

◎「ホ」ンジツワ 「ナ」コドサン 「ゴク」ロサンデゴ「ザイマ
「シタ。タシ「カ」ニ オ「ウケイ「タシマ」シタ。(山M)

本日は、仲人さん、ご苦労さんでございました。確かに、お受け
致しました。〈簡単〉〈かしこまり〉〈上品〉

※当地では、仲人のことは(オ)チューニンサンというが、本人に
向かってはナ(一)コドサンという。

3. その時、新婦はどのようなあいさつをしますか。

◎フ「ツ」ツカデゴ「ザイマ」ス。「ヨ」ロシク オ「ネガイ」シ
「マ」ス。(山M)

ふつつかでございます。よろしく申し上げます。〈稀〉〈かしこ
まり〉〈上品〉

※新婦は、挨拶しないことの方が多く、母親と一緒に頭を下げる程
度である。

○「シ」ンプノシ「ト」ワ ア「ンマリ シャ「ベラレンノ」ヤナ
「イカナ。(井)

新婦の人は、あまりしゃべられないのではないか。

※結納授受の日は、新郎側からは、父親もしくは叔父と仲人の男方
の二人で新婦宅に出向く。

新婦宅玄関では挨拶しない。

○「ア」イサツ「セ」ナイ「ノ」ガ ホ「ントデ」ス。ホ「ツデ
マ「ッス」グニ 「ト」オ「ッテ ソ「コデ ハ「ジ」メテ
「ア」イサツ「ス」ルンダッテ キ「イテマ」スガ「ネ」ー。
(山M)

(玄関で)挨拶しないのが本当です。それで、まあ、すぐに(部
屋に)通って、そこで初めて挨拶するのだと聞いてますがね。

新婦側では、両親とその間に新婦が並んで座っている。また丁寧
な所では親戚も男性ばかり5、6人出席する。

結納授受後、宴会となる。

○ホ「ツデモ」ー カ「エリ」ワ ヘ「ベレケニ 「ヨ」ーテ カ「

ツテク「ルツチュワ ホ「ントヤ チュ「ーニンサンワ「ネ」。
(山M)

それでもう、帰りはへべれけに酔って帰ってくるというのは本当だ、
仲人さんはね。

II. 嫁をもらう家の人へのお祝いのあいさつ

1. 嫁をもらうことが決まった家の人に道で出会って、近所の人たちはど
のようなお祝いのあいさつをしますか。

●コ「ノ」タビワ オ「メデトーゴザイマス。(井)

この度は、おめでとうございます。〈一般的〉〈上品〉

●ダ「レダ」レサンノオ「ヨメサン キ「マッタソ」ーデス「ナ」。
オ「メデトゴ」ザイマ「ス」。(山M)

誰々さんのお嫁さん、決まったそうですね。おめでとうございま
す。〈一般的〉〈上品〉

●「ヨ」メサン キ「マッタゲ」ナ「ナ」ー。オ「メデト」。(山M)

嫁さん、決まったそうだね。おめでとう。〈親しい関係〉〈高年
層〉〈中品〉

2. 嫁をもらう家の方は、そのあいさつに応じて、どのようなあいさつを
しますか。

●「マ」ヨ「ロシク オ「ネガイシマス。(井)

まあ よろしくお願ひします。〈一般的〉〈中品〉

●マ「タ」オ「セ」ワニナ「リマス。(山M)

また、お世話になります。〈一般的〉〈中品〉

III. 嫁に出すことが決まった家の人へのお祝いのあいさつ

1. 嫁に出すことの決まった家の人に、近所の人たちはどのようなあいさ
つをしますか。

●オ「ユイノーガ 「オ」サマリマシタ「ソ」ーデ オ「メデトー
ゴ」ザイマ「ス」。(山F)

お結納が納まりましたそうで、おめでとうございます。〈丁寧〉
〈上品〉

●コ「ノ」タビワ オ「メデトーゴ」ザイマス。(山M)

この度は、おめでとうございます。〈一般的〉〈上品〉

●コ「ノ」ダビワ オ「メデトー」。(井)

この度は、おめでとう。〈一般的〉〈中品〉

2、嫁に出す家の人は、そのあいさつに応じて、どのようなあいさつをしますか。

① オ「カゲサマデ ア「リ」ガトゴ「ザイマス。(山F)

おかげさまで、有難うございます。〈丁寧〉〈上品〉

② 「マ」タ 「ト」ージツ ミ「テヤッテ。デ「デクト」キニ ミ「テヤッテ。(井)

また、当日、(花嫁姿を)見てあげて。(家を)出て行く時に見てあげて。〈親しい関係〉〈中品〉

※結婚が決まると、町内の組の班長が代表して、お祝いを持っていく。

③ オ「メデトー「ゴ」ザイマス。「ホ」ンノソ「シナデスガ。(井)

おめでとうございます。ほんの粗品ですが。〈班長→親〉〈一般的〉〈上品〉

④ ア「リ」ガトーゴ「ザイマス。(井)

有難うございます。〈親→班長〉〈一般的〉〈上品〉

組からのお祝いとして、昔は、新郎の家へは酒、新婦の家へは日常品(下駄とか財布とか)を持っていくことが多かったが、今は祝い金と品物が半々である。祝い金としては、2千円ぐらい包み、新婦の家へは、組から出ていくわけだから、表に「餞別」と書くところもある。

親戚は祝い金を持っていくことが多い。

○ユ「イノオ」ワッタラ 「ス」ント モ「ッテミ」エルシ 「オ」ソイト「コ」ワ 「シ」キノ「ト」ージツ モ「ッテミ」エルシ「ト」モ ア「ル」シ「ネ」。 (山M)

結納が終わったら、すぐに持ってみえるし、遅いところは、式の当日に持ってみえる人もあるしね。

※結婚式の10日～3日前の大安吉日に、仲人と新婦の兄弟や親戚とで嫁入り道具を選ぶ。受け取る方は新郎の両親や兄弟、親戚が持っている。新婦側は荷物を家の入口まで選ぶだけで、中へ入れるのは新郎側がする。それが終わると、昼の食事をして、仲人と新婦側の者は帰る。

荷物を持っていった時に、仲人と新郎側の親が挨拶を交わす。

- ⑤ 「ホ」ンジツワ オ「メデト」ゴ「ザイマ」ス。「ニ」モツモ「ッテ ア「ガリマシタ。(井)

本日は、おめでとうございます。荷物を持ってありがとうございました。＜仲人→新郎の父親＞＜一般的＞＜かしこまり＞＜上品＞

- ⑥ 「ゴ」クロサマデ「ス」。オ「テス」ーカ「ケマ」ス。(井)

ご苦労様です。お手数をかけます。＜新郎の父親→仲人＞＜一般的＞＜かしこまり＞＜上品＞

仲人が目録を出すと、新郎側が確認し、受領書を渡す。

- チュ「ーニンサンワ 「ツ」イテクゾ。モ「クロク」ーガ 「ア」ルカラ。ナ「ニモ」ッテキタツチュ モ「クロク モ「ッテカ」ンナラン。ン「デ」 ナ「ニト ナ「ンデ コ「ンダケ」ノモンガア「ル」チュ ヤ「ッテクワ。(井)

仲人さんはずいて行くよ。目録があるから。何を持ってきたかという目録を持っていかなければいけないから。それで、何と何で、これだけの物があるという(確認を)していく。

- ⑦ オ「アラタメ」ク「ダサ」イ。(井)

お改めください。＜仲人→新郎の親＞＜一般的＞＜かしこまり＞＜上品＞

- ⑧ 「ホ」ンジツワ オ「ニ」モツオ タ「シカ」ニ チョ「ーダイイ「タシマ」シタノ「デ」 セ「ンポー」サ「マニ」モ ク「レ」グレ「モ オ「レー」オ モ「ーシアゲテ」ク「ダサ」イ。(井)

本日は、お荷物を、確かに頂戴いたしましたので、先方様にも、くれぐれもお礼を申し上げます。＜新郎の親→仲人＞＜丁寧＞＜かしこまり＞＜上品＞

IV. 結婚式当日のあいさつ

結婚式当日、結婚式に出席した人たちは、どのようなあいさつをしますか。

※昔の結婚式は、仏前結婚で、式と披露宴を新郎の家で行なった。

そして、式や披露宴には、親兄弟、血縁の濃い親戚しか呼ばなかった。

- シ「ンセキ」ダ「ケ」。「モ」 ソ「レ」モ 「チョクゾク」ノネ。「ホン」ツトノ 「モ」 「チョ」クノキョ「ーダイク」ライデ

スワ。ア「ラ」ノ「ジュ」ーヤッタラ 「ジュ」ーニン「オ」レ
ヘンワ。（井）

（出席者は家族と）親戚だけ。もう、それも直属のね。本当の、
もう、直の兄弟ぐらいですよ。アラノジュ（分家）だったら、
10人いないよ。

1-1、新郎の父親にどのようなあいさつをしますか。

◎「ホ」ンジツ「ワ」 「ゴ」シヨタイニ ア「ズカリマ」シテ
ア「リ」ガトゴ「ザイマ」シタ。（山F）

本日は、ご招待にあずかりまして、有難うございました。＜丁寧＞
＜かしこまり＞＜上品＞

◎オ「メデト」ゴ「ザイマ」ス。オ「マネキ」デ オ「ジャマ」シマシタ。
（井）

おめでとうございます。お招きで、おじゃましました。＜一般的＞
＜かしこまり＞＜上品＞

◎オ「ヒガラ」モ ヨ「ロシ」ク「テ」 オ「メデト」ゴ「ザイマ」
「ス」。（山F）

お日柄もよろしくて、おめでとうございます。＜一般的＞＜かしこまり＞
＜上品＞

◎「ホ」ンジツワ オ「メデト」ゴ「ザイマ」ス。（山M）

本日は、おめでとうございます。＜一般的＞＜上品＞

1-2、父親は、それに応えて、どのようなあいさつをしますか。

◎「ホ」ンジツワ ゴ「ク」ロサマデゴ「ザイマ」ス。オ「ヒマザ」
イカ「ケマ」シタ。ヨ「ロシ」ク オ「ネガイ」シマ「ス」。（井）

本日は、ご苦勞様でございます。おヒマザイ（時間つぶし）かけ
ました。よろしく申し上げます。＜丁寧＞＜かしこまり＞＜上品＞

◎オ「イソガシ」ート「コロ」 ア「リ」ガトゴ「ザイマ」シタ。
（山M）

お忙しい所、有難うございました。＜一般的＞＜かしこまり＞＜上品＞

2-1、新婦の父親にどのようなあいさつをしますか。

◎オ「ヒガラ」モヨ「ロシ」ク「テ」 オ「メデト」ゴ「ザイマ」ス。
（山F）

お日柄もよろしくて、おめでとうございます。＜一般的＞＜かしこまり＞

こまり><上品>

○オ「カ」シナコ「ト」バオ イ「ワンホ」ガエ「ー」デネ。サ「ビ」
「シナルトカ」ン「ナ」コト ユ「エ」ンシ「ネ」。(山M)

おかしな言葉を言わない方がいいからね。寂しくなるとか、そんなこと言えないしね。

2-2、父親は、それに応えて、どのようなあいさつをしますか。

主に、新郎側の出席者への挨拶として次のように言う。

●「ゴ」エンガ「ッ」テ 「コ」ンゴ 「ヨ」ロシク オ「ネ」ガイイ
「タ」シマス。(井)

ご縁があって、今後はよろしくお願い致します。<一般的><かしこまり><上品>

●「フ」ツツカモ「ノ」デスカ。コ「レ」カラ 「ヨ」ロシク オ「ネ」ガイシ「マ」ス。(山F)

ふつつか者ですが、これから、よろしく申し上げます。<一般的><かしこまり><上品>

※新婦の両親は、新郎の両親に対しても、上記のように挨拶する。

○オ「ネ」ガエス「ル」。「モー」 「オ」ヤワ ソノム「ス」メ オ
「イ」テ カ「イ」ンナワ「ネ」。シ「ン」ケンニ タ「ノ」ンデ イ
「ク」ワ「ケ」ヤワ「ネ」。(山M)

(新郎の両親に)お願いする。もう、(新婦の)親はその娘を置いて帰るのだわね。(だから)真剣に頼んで、行くわけだわね。

※出席者が仲人への挨拶としては、

●「コ」ノタビワ ゴ「ク」ロサンデ「ゴ」ザイマス。「ヨ」ロシク
オ「ネ」ガイイ「タ」シマス。(井)

この度は、ご苦労さんでございます。よろしく、お願い致します。

※結婚式当日の朝、ムコイリ(撥入り)といって、新郎と新婦の両親は仲人に連れられて、新婦宅へ行き、新婦の家族や親戚と食事をする。これは、式や披露宴への新婦側の出席者は新婦の親兄弟、血縁の濃い親戚に限られるため、ムコイリすることによって、新婦側の親戚への顔見せとなる。

○「ヒ」ルオ ソ「コ」デ イ「ッ」シヨニ シヨ「ク」ジ「ヨ」バレテ
カ「イ」ッテ ヨ「ル」 コ「チ」ラデ ホ「ン」シキ。タ「イ」カ
「ー」 「ソ」レ 「ヤ」ロッタヨ「ネ」。(井)

- 昼食をそこで、一緒に食事をよばれて、(新郎とその両親は)帰って、夜はこちらで本式(結婚式)。大概、それをやったよね。
- ※式への新婦側の出席者をシンキヤク(新客)という。
- ※結婚式当日、新婦が花嫁姿で家を出る時と、新郎の家に入る時にカシホリ(菓子投げ)をする。これが、近所への嫁入りの挨拶となる。カシホリは、まず新婦が家を出ると同時に、新婦の従兄弟達が屋根から菓子の入った袋を投げる。同様に、新婦が新郎の家に入ると、新郎の家でも、新郎の従兄弟達が新婦の家よりも多くの菓子を投げる。近所の人々も嫁入りがあると知ると、花嫁姿を見に集まって来るというよりは菓子を拾いに来る。
- ※新婦は仲人が連れてくる。新郎の家に入ると、まず仏前でお参りをする。現在のように、結婚式場を利用する場合でも、仏前参りをしてから式場へ行くことが多い。
- ※式と披露宴を二晩かけて行なう時は、一晩目は親兄弟、血縁の濃い親戚を呼び、二晩目は近所の人を呼んで、宴会をした。もっと古くは、三晩にかけて宴会をしたという。式そのものは、新郎新婦、両親が盃を交わすだけで、30分ぐらいのもので、その間、カシホリをしている。

V. 結婚式後、姑が新婦を連れて近所へあいさつに回る時のあいさつ

1. 結婚式後、姑が新婦を連れて、近所の家にあいさつをして回る時、姑はどのようなあいさつをしますか。

- ①「ゴ」ノタビ 「ゴ」エンア「ッテ キ「テ」イ「タダキマ」シタ。「ド」ーソ 「ヨ」ロシク オ「ネガシマ」ス。(山F)
この度、ご縁あって、(嫁に)来ていただきました。どうぞ、よろしく願います。〈丁寧〉〈上品〉
- ②「ゴ」ラ 「ゴ」ンドノ「ウ」チノヨ「メ」。ヨ「ロシ」ク「ト」オ「ネガエシ」マ「ス」。(井)
これは、今度のうちの嫁。よろしくと、願います。〈一般的〉〈やや上品〉

- ※昔は、結婚式後に、新婦は花嫁装束のまま、新郎、仲人、新郎の両親とで寺に参り、さらに、アイサツマワリを新婦と姑、新婦の母親の三人でした。後年になって、式の翌日の朝、姑だけが新婦を連れて回るようになり、最近では、新婦旅行から帰ってきて

からするようになった。

- 「モ」ロタホノ オ「カ」ーサンガ ダ「イヒョー」デ「ネ」
シヨ「ーカイノ」 「ア」イサツデスワ「ナ」。 (山M)

(挨拶は) もらった方のお母さんが、代表でね、紹介の挨拶です
わね。

※近所への挨拶回りの時、新婦の名前を、染め抜いたり、箱の上に
書いたりした風呂敷をくぼって回る。

- フ「ロシキク」 「ライモ」ッテネ ト「ナリキ」ンジヨ ク「ミ
ンク」 「ライマ」ワ「ンノヤ」ナ」。 (山M)

風呂敷ぐらい持ってね、隣り近所の(自分の)組ぐらいは回るの
だね。

2. そのあいさつに応じて、近所の人はどうのようなあいさつをしますか。

- オ「メデトゴ」ザイマ「シ」タ。ゴ「テ」ーネニ ワ「ザワザ
キ」テイタダ「イテ」ア「リ」ガトゴ「ザイマシタ。 (山F)

おめでとうございました。ご丁寧に、わざわざ来ていただいて、
有難うございました。<丁寧><かしこまり><上品>

- オ「メデトゴ」ザイマ「ス。ゴ「テ」ーネー「ニ」。 (山M)

おめでとうございます。ご丁寧に。<一般的><上品>

- ゴ「ク」ロサ「マデス。マ「タ」 タ「ノ」ム「ナー。 (井)

ご苦労様です。また、頼むな。<親しい関係><中品>

- ヨ「カッタデスナ」ー。 (山F)

良かったですな。<親しい関係><中品>

- シ「ラント」ッカラ ミ「エ」タノ「ヤ」ット 「モー」 「ソ
ーカ」ナ「ッテナ」コ「ッテ」 「タッテ」 ダ「マー」ッテ
「レ」エシ「テゴザ」ル「テ」ードヤ「デー。 (井)

知らない所からいらしたのだと、もう、「そうかな」ということ
で、立って、だまって、礼している程度だから。

VI. 嫁を迎えた家の人へのお祝いのあいさつ

1. 10日ほど前に、長男(29歳)に嫁をもらった父親(60歳台)へ
結婚式に招かれた女性(50歳台)が、昼下りの路上で、どのよう
なお祝いのあいさつをしますか。

- 「エ」ライ「ゴ」ッチソナ「リマ」シテ ワ「タシントコロマデ
ゴ」シヨ「ータイニ」ア「ズカリマ」シテ オ「カドガ」ヒ「ロ

イノニ ス「ミマセ」ンデ「シタ。(山F)

大変ご馳走になりまして、私ノ所まで、ご招待にあずかりまして、オカドガヒロイ(つきあいが多い)のに、すみませんでした。<丁寧><上品>

- セ「ンジツワ 「ド」モ ア「リガ」トゴ「ザイマシタ。オ「マ
ネキニ ア「ズカリマ」シテ ア「リガ」トゴ「ザイマ」シタ。
(井)

先日は どうも、有難うございました。お招きに預かりまして、有難うございました。<丁寧><上品>

- コ「ナイダ オ「ーキ」ニ ス「イマセ」ンデシタ「ナ」。 (山M)

この間は有難う。すみませんでしたね。<親しい関係><中品>

2. 父親は、それに応えて、どのようなあいさつをしますか。

- オ「イソ」ガシート「キニ シュ「ッセキ イ「タダキマ」シテ
ス「ミマセ」ンデシタ「ナ」ー。 (山M)

お忙しい時に、出席していただきまして、すみませんでしたね。<丁寧><上品>

- セ「ンジツワ ゴ「ク」ロサマデシ「タ」。オ「ヒマザイ カ「
ケテー ア「リガ」トゴ「ザイマ」シタ。(井)

先日は、ご苦勞様でした。おヒマザイ(時間つぶし)かけて、有難うございました。<丁寧><上品>

- オ「ヒマザイ カ「ケマ」シタ「ネ」。 (井)

おヒマイザイかけましたね。<親しい関係><中品>

VII. 結婚式後の仲人へのあいさつ

1. 結婚式後、仲人の所へ新郎新婦(あるいは両親)がお礼に行った時、どのようなあいさつをしますか。

- イ「ロイロ オ「セ」ワニナ「リマ」シテ オ「カゲサマデ
「マ」 ブ「ジニ ス「マサセテ イ「タダキマ」シテ コ「ン
ゴトモ 「ヨ」ロシク オ「ネガイイ「タシマ」ス。(山F)

いろいろお世話になりまして、おかげさまで、まあ、無事に済まさせていただきます。今後ともよろしくお願い致します。<親→仲人><丁寧><上品>

- コ「ノ」タビワー ア「リ」ガトーゴ「ザイマシタ。(井)

この度は、有難うございました。〈親→仲人〉〈一般的〉〈上品〉

※正式には、新郎新婦の双方の親が、それぞれに挨拶に行く。

その時、礼金として、結婚祝いにいただいた金額の倍額を手土産と一緒に持って行く。

※新郎新婦も、最近では、新婚旅行後に土産を持って挨拶に行くようになった。

2、仲人は、それに応えて、どのようなあいさつをしますか。

◎「イ」ヤ イ「キトドキマセ」ンデシタ。オ「メデトゴ」ザイマ「シタ。(山M)

いや、行き届きませんでした。おめでとうございました。〈仲人→親〉〈丁寧〉〈上品〉

◎「ド」ーモ イ「キトドキマセン」デ「。 (伊)

どうも、行き届きません。〈一般的〉〈中品〉

Ⅳ. 嫁のはじめての里帰りのあいさつ

1、嫁がはじめて里帰りする時、嫁ぎ先の親に、どのようなあいさつをしますか。

◎タ「ダ」イマカラ 「サ」トエ イ「カセテイ」タダキマ「ス。(山F)

ただいまから、里へ行かせていただきます。〈新婦→舅〉〈丁寧〉〈上品〉

◎ヤ「ッテモ」ライマス。(井)

行かせてもらいます。〈簡単〉〈やや上品〉

2、両親は、それに応えて、どのようなあいさつをしますか。

◎キ「オツ」ケテ「ナ」。オ「トー」サンヤ オ「カー」サンニヨ「ロシ」ク「ナー。(山F)

気を付けてね。お父さんやお母さんによろしくね。〈舅→新婦〉〈一般的〉〈中品〉

◎「オ」ヤニ ヨ「ロシクネ。(井)

親に、よろしくね。〈簡単〉〈中品〉

※里帰りは結婚式後、3、4日してからする。今は新婚旅行後にする。

※里帰りの時は、事前に親同士で打ち合わせておき、姑が新婦を連

れて行く。新婦宅で、姑と新婦の親とが挨拶を交わす。

- ◎ケ「コ」ンシ「キモ 「ブ」ジニ オ「ワリマ」シタ。シ「ンコ
リョ」コモ ブ「ジニ 「オ」ウラシテイ「タダキマ」シテ ア
「リガ」トゴ「ザイマ」シタ。(山M)

結婚式も無事に終わりました。新婚旅行も無事に終らせ頂きまして、
有難うございました。〈姑→新婦の親〉〈丁寧〉〈上品〉

- ◎「ホ」ンジツワ 「ワ」ザワザ 「ム」スメオ オ「クッテイ」
タダキマ「シテ 「ア」リガトゴ「ザイマ」シタ。コ「ナ」イダ
ウチワ イ「ロイロ オ「セウ」ニナ「リマ」シタ。ア「リガ」
トゴ「ザイマ」シタ。(山M)

本日は、わざわざ娘を送って頂きまして、有難うございました。
この間うちは、いろいろお世話になりました。有難うございま
した。〈新婦の親→姑〉〈丁寧〉〈上品〉

※新婦が里帰りした時の挨拶は、

- ◎イ「ッペン カ「エリマシタ。カ「エシテモ「ライマシタ。(井)
一度、帰りました。帰らせてもらいました。〈一般的〉〈中品〉

※結婚式後、日を決めて、近所の人に紅白饅頭を配って、声を掛けて、
新婦の持ってきた荷物(家具や着物)を見に来てもらう。

これを、ダンスアラタメ(ダンス改め)という。

これは、昔でも、荷物を1、2日の間、広げておくため、部屋数
の多い、旧家のようなところでしかできなかった。今は、あ
まりしない。

- ◎ナ「ニスルカ」ラ イ「ッペ」ン ミ「タッテ。(井)

何するから、一度、見てあげて。〈姑→近所の人〉〈親しい関係〉
〈中品〉

(椋山女学園大学文学部)